

中部横断道



自然と
人をつなぐ
道づくり



これからも「生物多様性に配慮した取り組み」を
行っています



中日本高速道路株式会社
 名古屋市中区錦 2-18-19
 三井住友銀行名古屋ビル 〒460-0003
 TEL:052-222-1620
<http://www.c-nexco.co.jp>



中部横断自動車道は、二〇〇二年三月の白根インターチェンジ(IC)と双葉ジャンクション(JCT)開通を皮切りに順次開通し、二〇一九年三月の新清水JCTと宮沢ICの開通により、山梨県内が初めて新東名・東名と高速ネットワークで繋がりました。

この区間は自然豊かな地域を通過するため、建設にあたり生物多様性に配慮した様々な取組みを行ってきました。その取組みの一部を紹介します。

1 猛禽類に配慮した建設計画

建設工事前の調査にて、工事現場近くで絶滅危惧種である猛禽類(オオタカ、クマタカ)の生息が確認されました。



クマタカ

猛禽類に対する工事の影響を最小限にするために、専門家からなる委員会を設け対策を検討し、工事時間の調整や低騒音・低振動機械の使用、新しく重機を使用する際には時間をかけて猛禽類をその新しい環境に慣らす「コンディショニング」などを実施し、監視調査を続けながら慎重に工事を行いました。また猛禽類の繁殖環境を守るために人工の巣を設置した結果、クマタカの抱卵を確認しました。人工巣は、GPSデータの解析結果に基づいて設置位置を決定したものであり、科学的手法に基づいた人工巣設置によりクマタカの産卵・抱卵が確認

されたのは大きな成果です。委員の先生からも「先例がなく極めて貴重である」との意見をいただいています。供用後二年間はモニタリング調査を継続予定です。



人工代替巣で確認された卵

2 希少植物の移植

建設工事前の調査にて、工事現場内に絶滅危惧種であるサイハイラン、オニカナワラビなどの希少植物が確認されました。これらの希少植物は、工事着手前に工事の影響のない近隣の生育環境が類似した箇所に移植作業を行いました。



サイハイラン



オニカナワラビ

3 「地域性苗木」の活用

地球温暖化の抑制や生物多様性保全のため、高速道路のり面を樹林化しています。建設現場では、周辺に自生する植物の種子をあらかじめ採取して、その種子から育てた「地域性苗木」を植えています。地域性苗木を用いることで、種と遺伝子レベルの生物多様性を保全します。



育成の様子
(緑化技術センター)



植え付け直後の様子

二万一千本の地域性苗木を植樹しました。

4 動物侵入防止柵の設置

自然豊かな地域を通過する中部横断自動車道の沿線には、シカやイノシシなどの大型動物が生息しています。それらの動物が高速道路内に侵入し、通行車両と接触し事故に繋がることを防ぐため、六郷ICと増穂IC、新清水JCTと宮沢IC間では大型動物の侵入を防止する柵を設置しています。設置にあたっては、動物の行動特性を考慮し、柵の網目の仕様や設置位置等を検討し現場に反映しています。



柵下面のコンクリートシール



排水溝サイズに合わせた柵

【動物侵入防止柵】

- 網目：登坂防止のため、縦長四角の網目を使用
- 高さ・跳躍防止のため、二・五mの高さの柵を設置
- 下面：滑り抜け防止のため、柵下面の隙間を無くし、更にコンクリートシールを施工することで、地面の掘り下げによる滑り抜けを防止
- また、動物の通路となり得る排水溝についても、排水溝サイズに合わせた柵を設置し、中型動物の侵入防止も行っています。
- 中部横断自動車道では、動物被害の削減・動物との接触事故の防止に努めています。

5 LED照明の採用

トンネルやインターチェンジの照明は、全てLED照明を採用しています。LED照明を採用することで、従来の照明を使用するよりも消費電力を抑えることができます。また、LED照明は従来の照明よりも誘虫性が低く、鳥類のエサとなる方などの昆虫の誘引を低減することができるとともに、衝突事故を防ぎ生態系の保全につながります。



トンネルのLED照明

